

人に

六畳の室に二つの坐布団をしいて  
二人きりで庭の蔓の乱れた朝顔を見たのは  
それは白い光の照りつけてゐる時  
言葉もなく  
何かこはばり  
秋に近い風が吹き  
青やもも色のしほれた花と  
みどり色のしほれた葉と  
茶色の素焼の鉢とが  
ぎよつとしたやうなあなたの目の中に映つてゐた  
たつた一瞬のあひだの事であつた  
素早く私たちは激しい戦ひをした  
いろどられた澄んだひとみの奥であなたのするどい意志が  
私のみにくさをたたきつけてゐた